

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業(事業期間:令和3年度～令和5年度)
事業の目標	<p>●大阪南東部に位置する河内長野市は、都市部に近いにも関わらず、豊かな自然に囲まれ、多くの緑やきれいな水に恵まれた地域である。「ちかくて、ふかい奥河内」をキャッチフレーズに推進してきたイメージ戦略が一定の広がりを見せ、近年の観光入込客数の増加につながっている。</p> <p>●また、「中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～」、「女人高野～女性とともに今に息づく女人高野～時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～」と「葛城修験～里人とともに守り伝える修験道はじまりの地～」の3つの「日本遺産」に認定され、それらを観光プロモーション等に活用している。</p> <p>●さらに、コロナ禍の影響により、人々の働き方や居住地選択に変化が生じており、大阪市中心部から電車で30分程度の距離でありながら、豊かな自然を有する本市への関心が高まっている。</p> <p>●本市の観光ハブ拠点として位置付けている道の駅「奥河内くろまろの郷」の周辺エリアには、JA大阪南農産物直売所「あすかてくてく」、林業総合センター「木根館」、府立花の文化園が併設され、エリア全体で観光誘客に取り組んでいる。</p> <p>●これらのことから、本市最大の集客エリアである道の駅「奥河内くろまろの郷」を中核として、観光客・交流人口の増加を、地域内産業の活性化に結びつけ、商業、また地域資源である農業・林業の振興をめざす。また、本市が持つ豊かな自然、歴史・文化などまちの魅力を発掘・創出し、市民のまちへの愛着や誇りを育むとともに、市への良好なイメージの定着を進め、新規移住者の受け入れ体制の整備等を推進することにより、交流人口の拡大を定住人口の増加につなげ、にぎわいや活力に満ちたまちの創造をめざす。</p>
全体の概要	<p>●農業、林業において、地域資源を活かしたブランド化を確立し、販路拡大につなげるとともに、磨きあげた資源を有機的に結び付け、さらなる市内循環を生み出すことで、地域内経済の活性化及び雇用の創出につなげる。</p> <p>●子育て世代が住みよいまちとするために、本市最大の集客施設である道の駅の「子育て応援」機能強化を行い、子育て世代に対応した地域活性・交流拠点整備を進める。(令和4・5年度事業)</p> <p>また、子育て世代を中心とした定住人口の確保を目的に、本市の良好なイメージの拡大を図るため、観光客(訪日外国人を含む)に直接届く観光プロモーションに取り組む。</p> <p>さらに、ポストコロナ期においても、子育て世代を中心とした市民や観光客が安心して集客と消費を高めることができるよう、観光MaaSを活用した事業を実施する。(令和5年度事業)</p> <p>●これらの取組みを、広く市民にも発信し、市民の地域資源への理解向上を図ることにより、市へのまちへの愛着や誇りを育み、定住促進につなげる。</p>

【数値目標(KPI)及び実績】

項目		事業開始前	令和3年度 (増加分)	令和4年度 (増加分)	令和5年度 (増加分)	累計
道の駅奥河内くろまろの郷年間売上高【億円】①	目標	8.54	0.42	0.46	0.47	1.35
	実績		0.05	0.47	0.47	0.99
おおさか河内材の木材供給量(原木材積)【m ³ 】②	目標	2,400.00	40.00	10.00	10.00	60.00
	実績		-200.00	776.00	10.00	586.00
「子育てのしやすさ」に関する市民満足度【%】③	目標	19.10	0.40	0.50	0.50	1.40
	実績		-0.60	-0.70	0.50	-0.80
社会動態の転入者/転出者の率【%】④	目標	78.00	4.00	4.00	4.00	12.00
	実績		0.04	-0.12	4.00	3.92
令和4年度の指標の状況及び事業への反映の考え方		<p>■KPI①の令和4年度増加分については達成した。これはコロナの影響から、道の駅への観光需要が高まったことや、市内の観光施設を結ぶスタンプラリー事業等と道の駅を連携させるなど、道の駅を核とした観光情報の発信機会を充実した結果、道の駅への来訪者数及び売上増加に繋がったと考えられる。</p> <p>■KPI②については、令和3年度と比較して大幅に増加している。このことは、本交付金事業として実施している「木のある暮らし推進事業」を必要とする人に周知され、木材利用量が増えたことに伴うものと考えられる。また、木材の搬出に係る支援と併せて本事業を進めたことが効果的に供給量を増やすことができ、林業の活性化に繋がったものと考えられる。</p> <p>■KPI③の令和4年度増加分については未達成となった。これは昨年引き続きコロナの影響から子育て世代を含む市民を対象としたイベント等が減少していたことや、市内公共施設等の利用が制限などが継続されたことにより、子育て世代の本市での生活に対する満足度の低下につながり、KPI③の低下につながったと考えられる。</p> <p>■KPI④の令和4年度増加分については未達成となっているが、これは令和3年度に比べ転入数の減少が顕著であったことによるものと考えられる。</p> <p>⇒KPI③④の達成に向けては、子育て世代を含む市内外からの観光客に向け、本市での生活や子育て、観光などの具体的なイメージを伝えることで、子育て世代の市民満足度や転入・転出防止の動機付けに繋げる必要があると考える。</p> <p>そこで、コロナ以後も集客力が向上しており、本市の観光拠点として機能を発揮している道の駅と連携した魅力発信の取り組みが必要であると考え、令和5年度においては、令和4年度に本交付金を活用して設計した道の駅優先駐車スペースへの屋根設置工事を実施し、子育て世代を含む多様な施設利用者の利便性向上を図り、更なる集客と、本市の良好なイメージの定着に取り組む。</p> <p>また観光MaaSアプリを活用した市内周遊ルート等を提案する情報発信事業に取り組み、具体的な本市における観光イメージの拡大につなげる。</p>				

※令和5年度以降は見込み

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業①	観光誘客促進事業	担当課 環境経済部産業観光課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和4年度実施事業	・かわちながの観光マップの作成 本市の観光の魅力(歴史・日本遺産・自然等)について観光客等に分かりやすく解説し、市域全体を案内する観光マップを作成した。多言語対応(英語、中国語(簡体字)の2言語)を行い、アフターコロナ期に向けたインバウンド集客に活用できるマップとした。	【参考指標】 ●作成部数 日本語版:10,000部、英語版:3,000部、中国語版:3,000部 ●配布部数(令和4年度末まで) 日本語版:約5000部、英語版:約200部、中国語版:約200部 ●令和4年度観光入込客数: 1,077,400人(R3年度比91,800人増)	1,215
		(合計)	1,215

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	完成したマップは、道の駅や河内長野市観光案内所の来訪者に、日本遺産ガイドブックやハイキングマップなどの観光テーマ別に作成した既存のパンフレットと組み合わせて観光案内を行い、市内周遊を促している。 また、インバウンドを含むさらなる誘客促進を図るため、市内の主要観光施設だけでなく、大阪観光局と連携し、大阪市内の観光案内所にも配架を依頼した。併せて、河内長野市観光ポータルサイトなどにマップデータを掲載し、WEBでの情報発信も行っている。また、今後はイベント等においても配布し、国内外からの一層の観光誘客に向け、積極的に活用していく予定である。 このように、本マップは、今後の観光情報発信事業の中核となる資料として活用が図られている。

評価:交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③「効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	・新型コロナウイルス感染症の影響が減少してきたことや、万博等の開催によるインバウンドを含む観光需要の回復を見据え、本市の観光情報発信の拠点である道の駅と観光案内所と連携し、本市の魅力効果を効果的に発信する取り組みが必要である。 ・本市の観光コンテンツの認知獲得に係る情報発信に加え、それらを組み合わせ、市内の周遊と観光消費の促進に向けた取り組みを実施していく。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業②	木のある暮らし推進事業	担当課 環境経済部農林課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和4年度実施事業	・おおさか河内材活用事業補助金 地元木材である「おおさか河内材」のブランド化を確立し、林産品の利用促進につなげることで、地域資源である林業の活性化を図り、雇用の創出につなげるため、民間事業者等によるおおさか河内材を活用した建物の新築や改修のうち、おおさか河内材活用のモデル事例となり、その魅力を市内外に広く発信することができる取組みを選定し、補助金により支援することで、市として戦略的におおさか河内材の魅力を発信し、利用拡大につなげていく。 補助金額: おおさか河内材使用量(m ³) × 60千円～100千円(使用量による)	”[参考指標] ●本補助金活用によるおおさか河内材使用量 ・令和3年度: 41.3m ³ ・令和4年度: 51.1m ³ ⇒増加量: 9.8m ³ ●おおさか河内材の木材供給量 ・令和3年度: 1,997m ³ ・令和4年度: 2,773m ³ ⇒増加量: 776.0m ³ ”	4,278
		(合計)	4,278

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	・「おおさか河内材」の活用支援を行ったことで、50m ³ を超える材の使用量の確保ができた。また、おおさか河内材の木材供給量は令和3年度と比較して大幅に増加しているが、本補助金により使用料が増加したことが一因と考えられる。 ・補助金事業により、市内住宅等の木質化の後押しすることができた。 ・木材の搬出に係る支援と併せて行うことにより、効果的に林業振興を図ることができた。

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、③「効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	・「おおさか河内材」の活用支援及び取組周知・情報発信を引き続き実施していく。 ・本事業と木材の搬出に係る支援を併せて取り組むことにより、川上(森林側)・川下(使う側)の両方向から木材供給量増加に繋がる支援を進めていく。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業③	産地ブランド力向上事業	担当課 環境経済部農林課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和4年度実施事業	<p>○改植・新植に係る苗木購入補助金 大阪府下有数の桃の産地である本市において、地元桃のブランド化を確立し、販路拡大等に繋げるとともに、道の駅において桃を活用した加工品の製造販売につなげるよう、市として戦略的に優良品種への改植・新植に対する支援を行う。 自立に向けては、JA、地元桃組合、道の駅、加工事業者等と連携を深め、桃の供給体制の強化や加工品製造販売等を通じ、補助金なくともブランド製品としての販路獲得を促す取り組みを進める。</p> <p>2団体 12名 87本 77,485円</p>	<p>【参考指標】 ○直売所における桃売上状況 あすかてくるで(河内長野・羽曳野) R3:12,642点 7,460,040円 R4:14,469点 8,663,720円</p>	77
		(合計)	77

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
担当者評価	②相当程度効果があった	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の実施により、地元桃のさらなるブランド化、販路拡大等に繋げるとともに、生産量の確保と産地の競争力の向上を図ることができた。 ・本事業の実施により、優良品種への改植・新植を促進し、直売所における品揃えの向上と、消費者ニーズに即した農産物の提供につながることを期待される。 ・特定外来生物クビアカツヤカミキリに対する被害が顕著に増加傾向であり、その対策としても効果があった。

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、③「効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者の高齢化と担い手不足。 ・地球温暖化による栽培環境の変化(旬・品種・栽培方法など)。 ・消費者ニーズが高く、直売所でも人気のある桃について、産地の保全と、後継者の育成、加工品も含めた販路の拡大に取り組んでいく。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	<p>取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために</p> <p>①妥当である</p> <p>②概ね妥当である</p> <p>③検討を要する</p>	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業④	世界かんがい施設遺産登録PR事業	担当課 環境経済部農林課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和4年度実施事業	・世界かんがい施設遺産登録PR事業 令和3年11月に世界かんがい施設遺産に登録されました寺ヶ池・寺ヶ池水路について、パネル、パンフレット、幟の作成を行い、記念事業である基調講演、展示会、特別展を開催し、広く市民に周知し、PRを行う。また、市民の安全確保を図るため、現地の危険な箇所立ち入りを控える看板の作成を行う。	[参考指標] ●基調講演参加者数:50名(7/2・キックス) ●展示会入場者数:109名(7/1,3・キックス) ●特別展入場者数:925名(7/30~9/19・ふるさと歴史学習館)	661
		(合計)	661

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
担当者評価	②相当程度効果があった	・記念事業の基調講演、展示会、特別展を開催するために、パネル5枚、パンフレット4,000部を作成し、広く市民にPRすることができた。 ・市内小、中学校にパンフレットの作成について周知し、5校の小学4年生にはパンフレットを配布し、総合学習の授業で寺ヶ池・寺ヶ池水路の地域の学習教材として活用できた。

評価:交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、③「効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	・パンフレットや幟等を活用し、寺ヶ池公園を中心に広く市民に周知、情報発信を実施していく。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業⑤	自転車の駅整備事業	担当課 環境経済部産業観光課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和4年度実施事業	・電動サイクル充電機器の購入 コロナ禍において、密を避ける地域の身近なアウトドア環境での観光の取り組み強化を図るべく、子育て世代を中心としたサイクリストをターゲットとした市内周遊のネットワーク化を促進することを目的に、道の駅及び観光案内所に、施設来訪者が利用できる電動サイクル用充電器を設置した。また、道の駅のレンタサイクル備品を拡充した。 ・充電器 パナソニック(NKJ075Z) 2台 YAMAHA(X2P8210C) 2台 ※各施設に各1台ずつ配置 ・バッテリー パナソニック(NKY580B02) 5個	[参考指標] ●充電機器設置施設:道の駅奥河内くろまるの郷、河内長野市観光案内所 ●レンタサイクル実績(R4) 道の駅:369件(R3年度比100件増)、観光案内所:705件(R3年度比:129件増) ●令和4年度観光入込客数:1,077,400人(R3年度比91,800人増)	250
		(合計)	250

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
担当者評価	②相当程度効果があった	新型コロナウイルス感染症の感染拡大をきっかけに、サイクリングやウォーキング、ハイキングなど、密を避けるアウトドアを楽しむ層が増加している。また、本市は起伏の多い地形であり、かつ市内を東西に結ぶ2次交通にも課題があることから、電動自転車を活用した観光周遊促進は、これらの課題解決に寄与していると考えられる。

評価:交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、③「効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	・道の駅及び観光案内所においては、充電器の貸し出し事業の利用者増加に向けたPRの強化を実施するとともに、市内周遊ルートの提案を併せて実施し、市内の観光周遊促進に向け主体的に取り組む必要がある。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業⑥	道の駅「子育て応援」機能強化事業	担当課 環境経済部産業観光課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和4年度実施事業	・道の駅優先駐車スペースからトイレ棟への屋根設置に係る設計業務 地域の子育て世代を応援するとともに、子育て世代の道路利用者への休憩機能の補完を行うことを目的に、道の駅奥河内くろまろの郷の優先駐車スペース(障がい者・高齢者・妊婦など)から施設トイレ棟への経路上に設置する屋根の設計を行った。 (1)機能強化設計委託料 741,400円 (2)開発許可申請手数料 5,200円	【参考指標】 ●令和4年度道の駅奥河内くろまろの郷来場者数:619,451人(R3年度比41,515人増) ●令和4年度道の駅奥河内くろまろの郷売上:964,755,919円(R3年度比47,186,525円増)	747
		(合計)	747

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
担当者評価	②相当程度効果があった	優先駐車スペース(障がい者・高齢者・妊婦など)から施設への屋根の設置を行うことは、KPIとして設定している「道の駅奥河内くろまろの郷の年間売上高」の増加、「『子育てのしやすさ』に関する市民満足度」及び「社会動態の転入者/転出者の率」の向上に寄与するものと考えます。 令和4年度の事業においては、耐久性や安全面を考慮するとともに、施設の外観イメージに調和するよう屋根の仕様を検討しました。

評価:交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	・上記のとおり屋根の仕様を検討した結果、物価高騰等の影響もあり、当初の想定よりも事業費の見積額が増加した。 ・今後においては、令和4年度に別途整備したライブカメラの活用や、指定管理者との連携により、道の駅の観光情報発信を進めていく。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	